

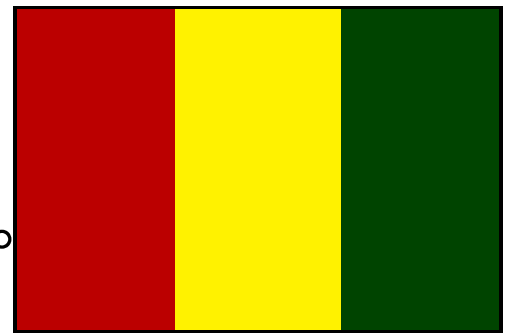
ギニア共和国

【国名】

- 国名の「ギニア」の由来は諸説あり、ベルベル語の「黒人の地」が由来とも言われる。

【国旗】

- 赤は太陽（生命の源）、黄は黄金とアフリカの光、緑は豊かな森林を象徴する。



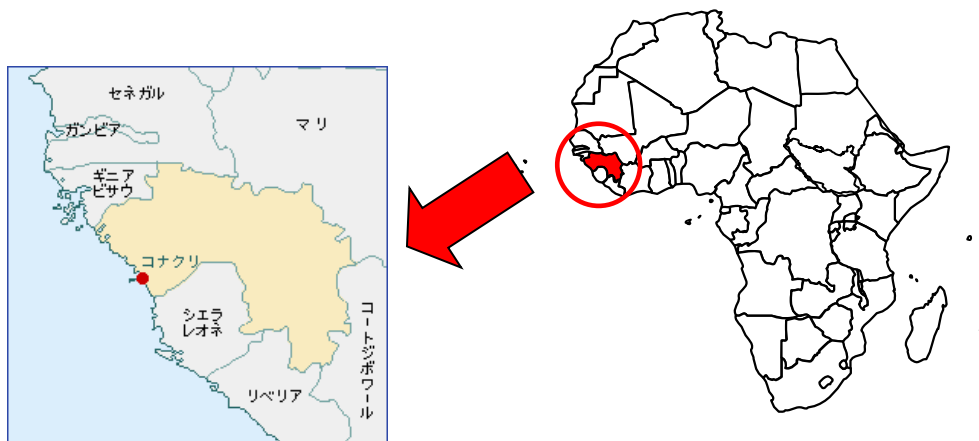
ギニア国旗

【国の標語】

「労働・正義・団結」

【国土】

- アフリカ西部の沿岸国。面積約 24 万km²で本州とほぼ同じ。首都はコナクリ。人口は 1,260 万人。



【宗教・言語】

- 国民の約 85%がイスラム教徒。他はキリスト教徒及び伝統宗教の信仰者。
- プル族（40%）、マリンケ族（35%）、スス族（15%）のほか、20 あまりの民族が存在。コンデ大統領はマリンケ族。
- 公用語はフランス語。その他、プル語、マリンケ語、スス語を含む現地語が話される。

【気候】

- 全体的に多雨。ニジェール河、セネガル河、ガンビア河等、西アフリカを代表する国際河川の水源がギニアに存在し、「アフリカの給水塔」とも呼ばれる。
- コナクリは最も雨量の多い首都（約 4,000mm）として知られ、東京の年平均降雨量（約 1,529mm）の約 2.5 倍。

【歴史・政治】

- 現在のギニア北東部には、13世紀～14世紀にかけて西アフリカー帯を支配下においたマリ帝国の首都があった。マリ帝国は大量の黄金により「黄金の国」としてヨーロッパ中に伝説が広まるほど繁栄。
- 1891年、仏の植民地となり、1958年、他の西アフリカ諸国に先駆け、仏から独立。
- セク・トゥーレ初代大統領の「豊かさの中の奴隷より、貧困の中の自由を選ぶ」という言葉のとおり、ギニアの独立不羈の精神は今でもギニア国民の誇りと言われる。

【豊富な天然資源】

- 推定埋蔵量は全世界の3分の1、生産量第2位のボーキサイトのほか、金や鉄等を産出する西アフリカ随一の鉱物資源大国。
- 豊富な水資源と肥沃な土地を有し、農業のポテンシャルが高く、良好な漁場には近隣諸国のみならず外国の漁船が訪れる。

【エボラ出血熱と日本の支援】

- 2013年12月から2016年6月の終息まで、エボラ出血熱で2,500名以上が死亡、生存者の中には後遺症に苦しむ者もいる。経済成長率の大幅な低下を招いた。
- 日本は、総額31百万ドルの人道支援のほか、富士フイルム／富山化学のアビガン錠、東芝（現キヤノン）の迅速検査キット、東レの感染防護衣などの提供を行った。

【日本の開発協力】

- 日本からギニアへの最初の開発協力は地図専門家の派遣。1980年から4年間、日本人専門家延べ90余名が派遣され、ギニア人技師の育成、ギニア全土の空中撮影、基準点網の整備を行い、厳密集成写真図、カンカン地区地形図を完成。今日においても、ダムや道路等のインフラ整備において、作成された地図が役立っている。この話はNHK「プロジェクトX」でも紹介された。本件地図作成事業の団長を務めた本島建三氏もとしまけんぞう（2014年に逝去）は、2017年にギニア政府から同国最高位のコラティエ勲章を授与された。

- 首都コナクリとギニア内陸部を結ぶ国道1号線に架かる老朽化したカア力橋の建替を無償資金協力で支援。2017年6月のコンデ大統領訪日直前に完成。



カア力橋



引渡式の様子

【友好な二国間協力関係】

- 1958年10月に独立を果たしたギニアの国連加盟（58年12月）を実現するため、日本は、安保理非常任理事国（任期：1958年～59年）として尽力。1956年に国連加盟国となり国際社会に本格復帰を果たしたばかりの日本が国連各加盟国の信用を獲得し、国際的地位を高めるきっかけとなった。

- 2017 年 6 月、アルファ・コンデ大統領が、ギニアの大統領として史上初めて二国間公式訪日（実務訪問賓客）した。
- また、コンデ大統領は、2010 年に大統領就任以降、2013 年、2016 年、2019 年のアフリカ開発会議（TICAD）に欠かさず参加。2019 年 8 月の TICAD7 期間中に行われた日・ギニア首脳会談において、同大統領は、日本から受けた漁業・農業等の分野での協力に対する謝意を表明した。

【豊かな音楽文化】

- 木琴（バラフォン）、太鼓（ジェンベ）、伝承歌曲（グリオ）、伝統舞踊（アフリカン・ダンス）等、洗練された



バラフォン

芸術・文化がある。バラフォンは ギニアを起源としており、ユネスコの世界無形文化遺産。

- 2020 年 5 月に亡くなったモリ・カンテ氏は世界的なミュージシャンとして活躍。80 年代後半に発表した「イエケ・イエケ」は、欧州や日本でもヒットした。

【ジェンベと三島村】

- ジェンベ修得のためギニアを訪れる日本の若者も多い。ジェンベの神様と呼ばれるマディ・ケイタ氏は、1994 年以降毎年鹿児島県でコンサートを行う等交流が続いており、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックでは三島村がギニアのホストタウンとして正式登録された。

【豊穡の女神ニンバ像】

- ギニアの豊穡の女神ニンバ像は、アフリカを代表する彫刻として広く知られ、ニンバ像をモチーフにした多種多様な伝統民芸品が作成されている。



ニンバ像

【チンパンジーの研究】

- 京都大学の松沢哲朗^{まつざわてつろう}特別教授（文化功労者）は過去 30 年以上、ギニア南東部でチンパンジーの観察研究を実施。同地区では世界的にも貴重なチンパンジーを間近に観察できる場所。ギニアに生息するチンパンジーは道具を使用しヤシの実を割るなど他では見られない行動で知られている。

【スポーツ】

- サッカーが最も人気のあるスポーツ。リヴァプールのナビ・ケイタ、元ACミランのケビン・コンスタン、VfBシュトゥットガルトのイブラヒマ・トラオレ、マンチェスター・ユナイテッドのポール・ポグバ(フランス代表、兄弟がギニア代表)ほか、多くのギニア人選手が欧州リーグでも活躍。
- 日ギニア間のサッカー交流もあり、2017年5月にサッカー日本代表U17がコナクリでギニア代表と親善試合、2017年6月には仙台でサッカー日本代表U16がギニア代表と交流試合を行った。
- 1997年～1999年にギニアに派遣された柔道専門家の功績もあり、柔道が普及。空手も普及している。



【ギニア料理】

- 民族によって主食（米、トウモロコシ、雑穀、キャッサバ等）は異なるが、最近は一般的に米が好まれる。
- 良質なヤシ油を豊富に産出しており、生魚、ニシンの燻製、肉、野菜をヤシ油で煮込んだスープを炊いた米にかけ、唐辛子を添える料理が多い。生野菜はほぼ食べない。



ギニア料理の一例

【著名なギニア人】

- 2017年4月、テレビタレントとして知られるオスマン・サンコン氏に、ギニア人として初めて日本の勲章が授与された（旭日双光章）。

（了）